

2変数関数のテータ展開

□ 第一式

$$x^* + \epsilon'_x = f(x^* + \epsilon_x, y^* + \epsilon_y)$$

□ 第二式

$$y^* + \epsilon'_y = g(x^* + \epsilon_x, y^* + \epsilon_y)$$

線形写像による近似

□ $\epsilon_x \ll 1, \epsilon_y \ll 1$ だから ,

□ これは , _____ 写像

□ 「線形な行列による写像により , (ϵ_x, ϵ_y) は , どのような変化を示すか」を考えれば良い .

⇒ どこで習ったか?

—

演習

- 線形な行列による写像の応答は，どのように分類されるか，を考える前に，演習をやりましょう．
エノン写像

$$\begin{cases} x(t+1) &= 1 - ax(t)^2 + y(t) \\ y(t+1) &= bx(t) \end{cases}$$

のヤコビ行列を求めなさい．

演習

□ 池田写像

$$\begin{cases} x(t+1) = q + b(x(t) \cos \theta(t) - y(t) \sin \theta(t)) \\ y(t+1) = b(x(t) \sin \theta(t) + y(t) \cos \theta(t)) \\ \theta(t) = \kappa - \frac{a}{1 + x^2(t) + y^2(t)} \end{cases}$$

のヤコビ行列を求めなさい。

線形な差分方程式

□ 1次元の場合

$$x(t + 1) = Rx(t)$$

これを解くと(_____) ,

- _____ であれば漸近安定
- _____ であれば不安安定
- _____ であればリアプノフ安定

□ それでは、2次元の場合は?

□ さらに進んで、一般の K 次元の場合は?

線形な差分方程式

□ 2次元の場合は?

$$\begin{cases} x_1(t+1) = ax_1(t) + bx_2(t) \\ x_2(t+1) = cx_1(t) + dx_2(t) \end{cases} \Leftrightarrow \begin{pmatrix} x_1(t+1) \\ x_2(t+1) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} a & b \\ c & d \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{pmatrix}$$

□ もし, 1次元の場合とのアナロジーで,

などとして, 安定性の判定が出来たらうれしい.

「簡単」な線形差分方程式

- 一般的な2次元の線形差分方程式

$$x(t+1) = Ax(t)$$

から、

$$x(t) = \begin{pmatrix} \square & \square \\ \square & \square \end{pmatrix} x(0)$$

を求めるのは容易ではない。

- そこで、まずは簡単にできる例から考えてみよう。以下の場合
はどうか？

対角行列の場合

□ 対角行列の場合は簡単である。

□ つまり、

のように、_____ に考えればよい

□ それでは、対角行列でない一般の場合はどうか。
対角行列のパターンに _____ できないか？ ⇒ _____

対角化とは何か (1)

[問題] 以下の具体例を考えよう。

$$\begin{pmatrix} x_1(t+1) \\ x_2(t+1) \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5 & 1 \\ 1 & 5 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{pmatrix}$$

に対して, $x_1(t) = \square x_1(0)$, $x_2(t) = \square x_2(0)$ を求めよ。

□ ヒント 1

$$\begin{cases} y_1(t) = x_1(t) + x_2(t) \\ y_2(t) = x_1(t) - x_2(t) \end{cases}$$

として, $y_1(t), y_2(t)$ を求めよ。

対角化とは何か (2)

- ヒント 2 : $y_1(t), y_2(t)$ から $x_1(t), x_2(t)$ に戻せ .

対角化とは何か (3)

[問題] 今の問題を行列を用いて翻訳せよ。

□ ヒント

$$y(t) = \begin{pmatrix} y_1(t) \\ y_2(t) \end{pmatrix}, x(t) = \begin{pmatrix} x_1(t) \\ x_2(t) \end{pmatrix} \text{ とすれば } y(t) = Cx(t)$$

対角化とは何か (4)

[問題] うまくいった理由を探ろう。



うまく解けるかどうかの鍵は、



$$\mathbf{x}(t) \Leftrightarrow \mathbf{y}(t)$$

単なる表現上の問題だが …

□ $\mathbf{x} \rightarrow \mathbf{y}$

$$\begin{cases} \mathbf{y}(t) = \mathbf{C}\mathbf{x}(t) \\ \mathbf{x}(t) = \mathbf{C}^{-1}\mathbf{y}(t) \end{cases}$$

□ $\mathbf{y} \rightarrow \mathbf{x}$

$$\begin{cases} \mathbf{x}(t) = \mathbf{P}\mathbf{y}(t) \\ \mathbf{y}(t) = \mathbf{P}^{-1}\mathbf{x}(t) \end{cases}$$

□ 理由

対角化とは何か (5)

□ さて, $x(t) = Py(t)$ より, である.

$$y(t+1) = P^{-1}x(t+1)$$

となるので,

□ Λ が対角行列ならば, より,

対角化とは何か (6)

元々の変数

$$\mathbf{x}(t)$$

$$\mathbf{x}(t + 1)$$

便利な変数

$$\mathbf{y}(t)$$

$$\mathbf{y}(t + 1)$$

対角化とは何か (7)

- $P^{-1}AP$ が対角行列になるような P をどうやって求めるか .

$$P = \begin{pmatrix} \square & \square \\ \square & \square \end{pmatrix} = (p_1, p_2)$$

のように考えよう . ここで , p_1, p_2 は _____

- 求めたいのは ,

のように _____



対角化とは何か (8)

□ 順次、変形していくと...





ここまでのまとめ

線形な2次元差分方程式 $x(t+1) = Ax(t)$ を定める行列 A に対して、

- 正則行列 P をうまく選んで、 $P^{-1}AP = \Lambda$ により _____ できれば、

λ_1, λ_2 は行列 A の固有値

P は行列 A の固有ベクトルを並べた行列

- 安定であるためには、

注 ここまでは、

固有値，固有ベクトルの意味

- 固有値 λ ，固有ベクトル p の定義
正則な行列 A に対して
- 差分方程式 $x(t + 1) = Ax(t)$ のダイナミクスとの関係
 $\implies x(0) = p$ としたらどうなるか？

—

—

—

—

—

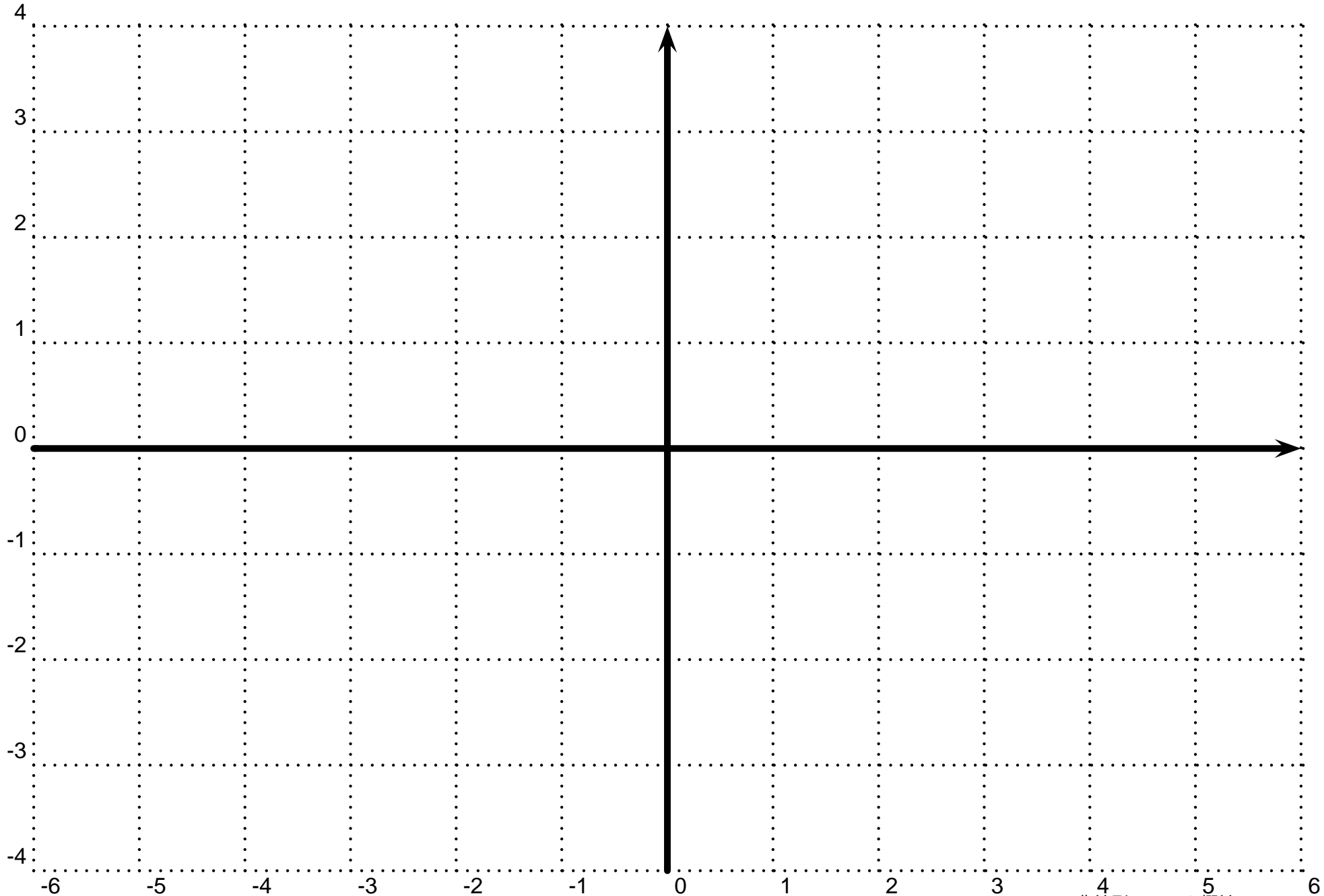
固有値，固有ベクトルの意味

- $x(t) = \lambda^t p$ の意味は？
 - p (A の固有ベクトル) を初期値として与えると，
で _____
 - _____ のは _____ ， _____ のは _____

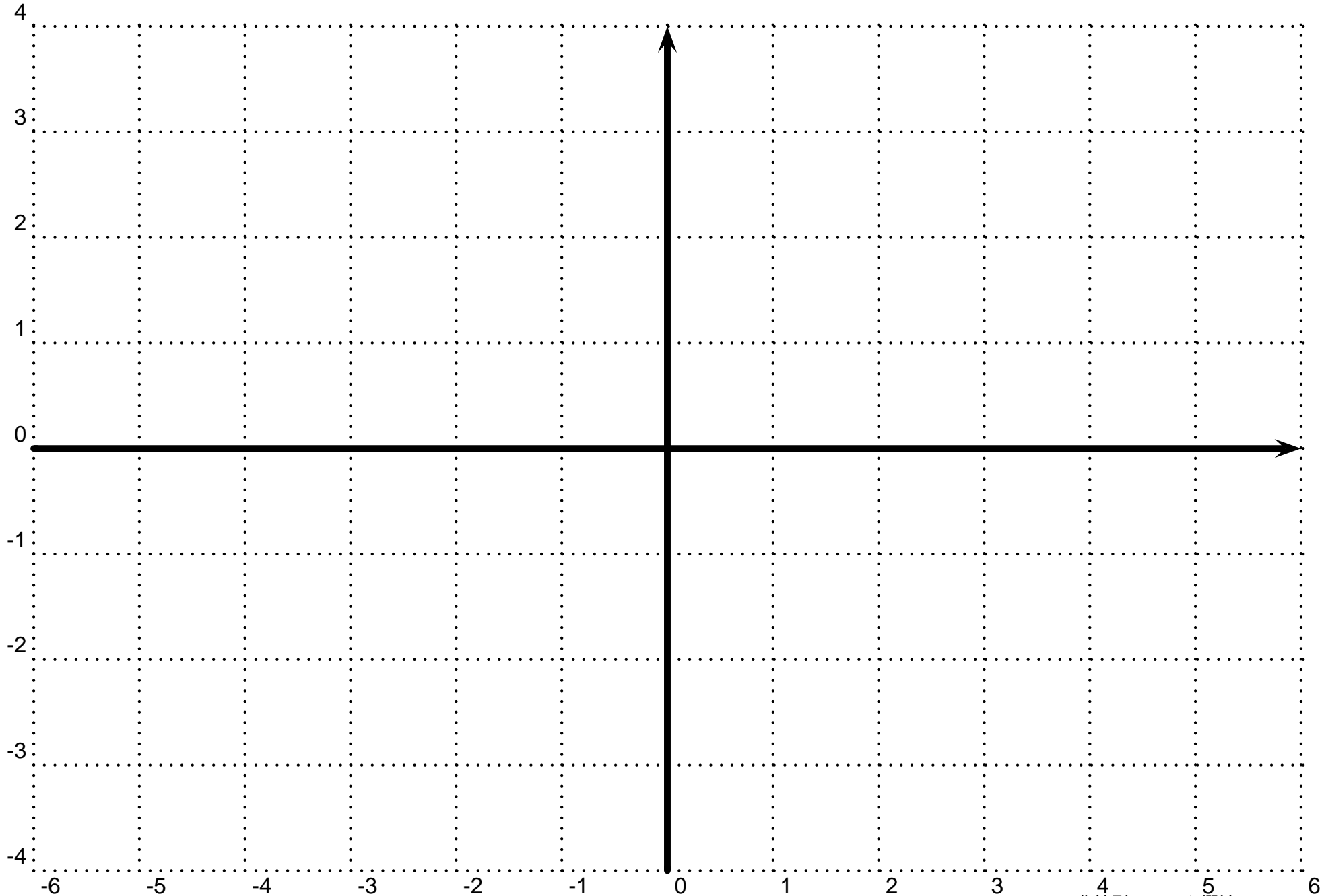
例 2次元の線形差分方程式 $x(t+1) = Ax(t)$ の写像行列 A の固有値を λ_1, λ_2 ，固有ベクトルを p_1, p_2 としよう．この差分方程式の固定点 x^* は， _____ である．以下の場合について，固定点の安定性を議論しよう．但し， $p_1 = (2, 1)^T$ ， $p_2 = (1, -1)^T$ とする．

- $\lambda_1 = 0.8, \lambda_2 = 0.6 \Rightarrow$ _____
- $\lambda_1 = 1.6, \lambda_2 = 1.2 \Rightarrow$ _____
- $\lambda_1 = 2.0, \lambda_2 = 0.5 \Rightarrow$ _____

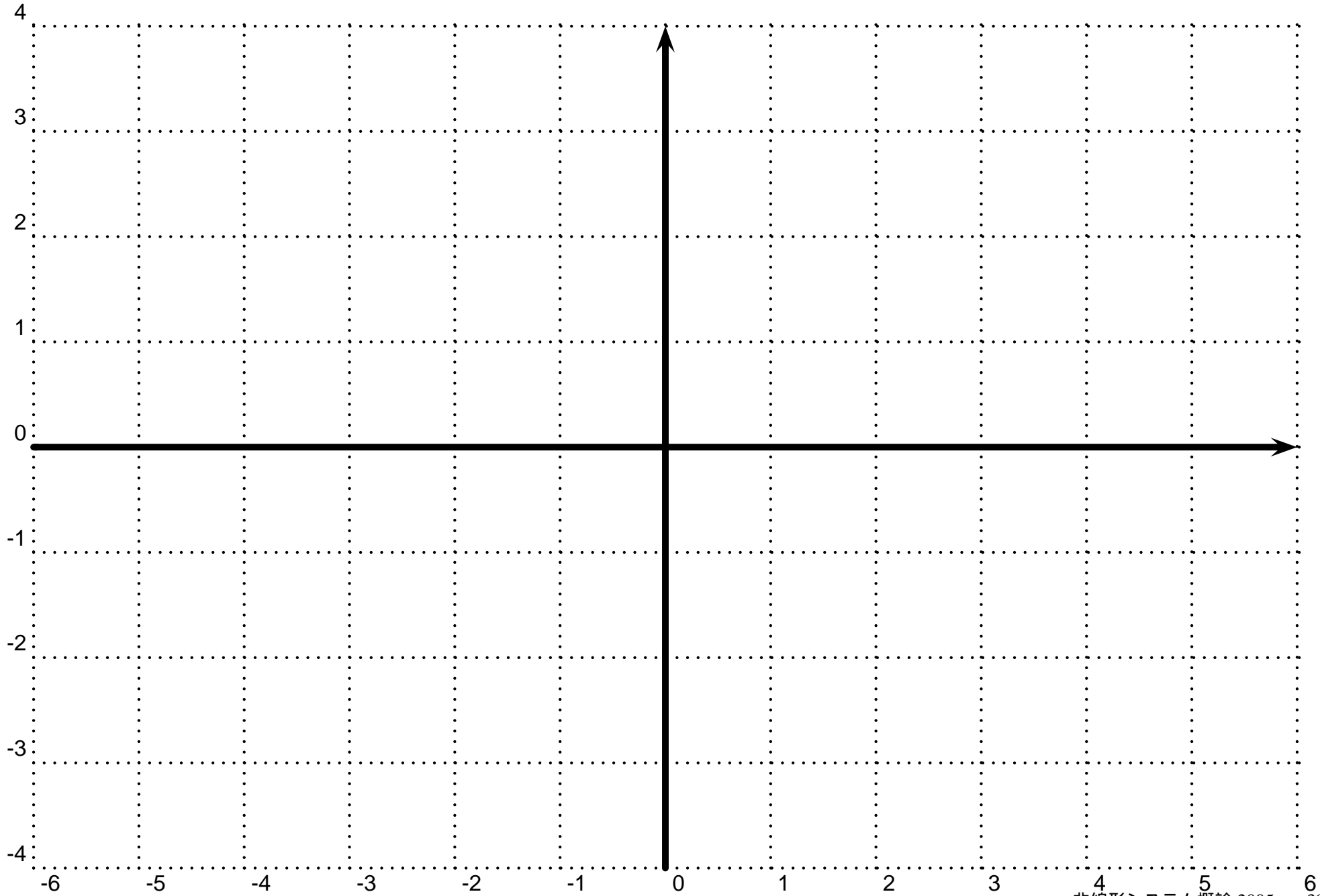
$\lambda_1 < 1, \lambda_2 < 1$ の場合



$\lambda_1 > 1, \lambda_2 > 1$ の場合



$\lambda_1 > 1, \lambda_2 < 1$ の場合



固有値，固有ベクトルを求めるには

- 定義より
- 移項すると
- 従って
- これを _____ という。

特性方程式の解のパターン

□ 実数解 →

– 相異なる二つの実数解 λ_1, λ_2

→ $|\lambda_1| < 1, |\lambda_2| < 1$ _____

→ $|\lambda_1| > 1, |\lambda_2| > 1$ _____

→ $|\lambda_1| > 1, |\lambda_2| < 1$ _____

– 重解 λ

→ $|\lambda| > 1$ _____

→ $|\lambda| < 1$ _____

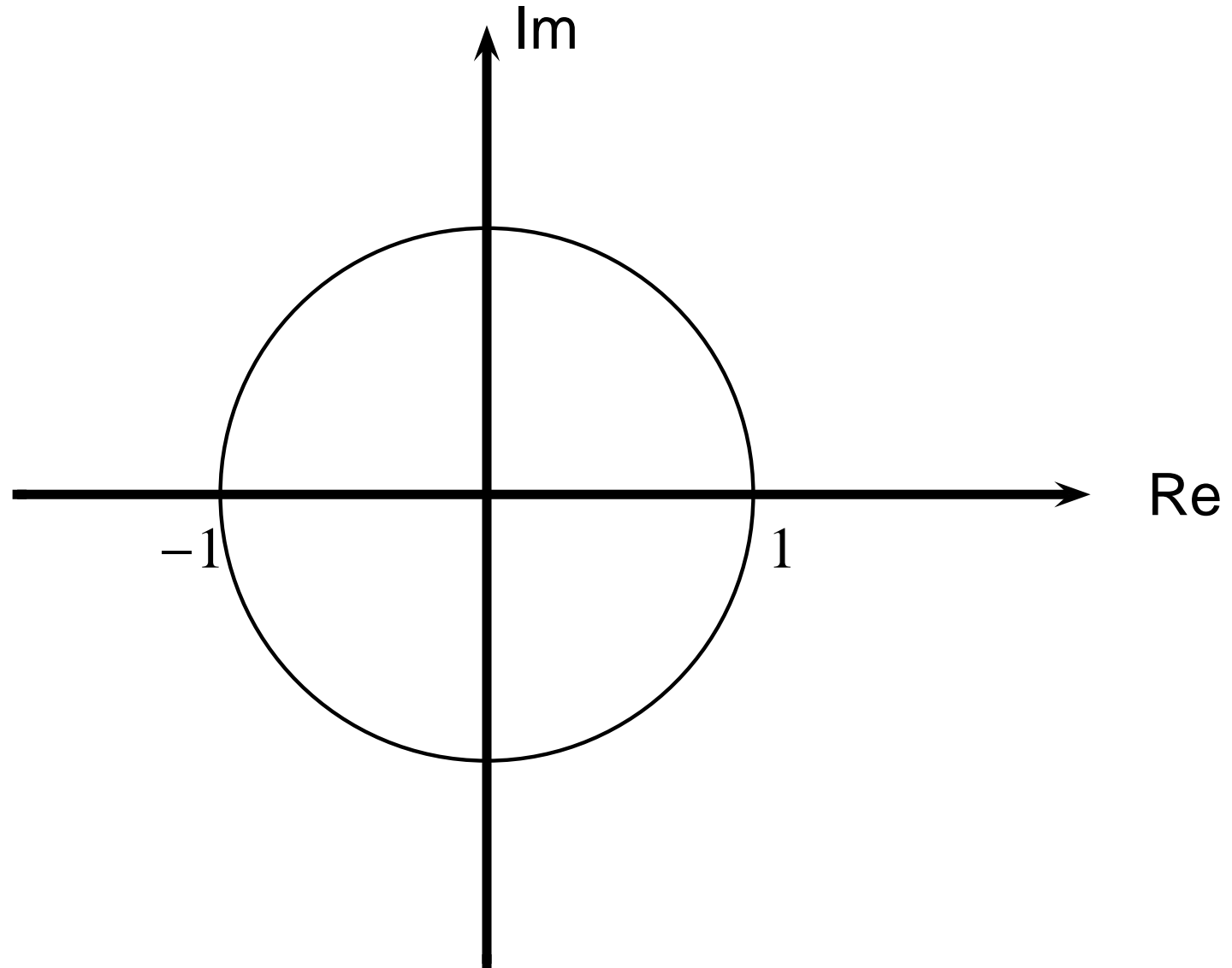
□ 複素数 → $\lambda_1, \lambda_2 = \sigma \pm i\omega$ より

– $\sigma^2 + \omega^2 < 1$ _____

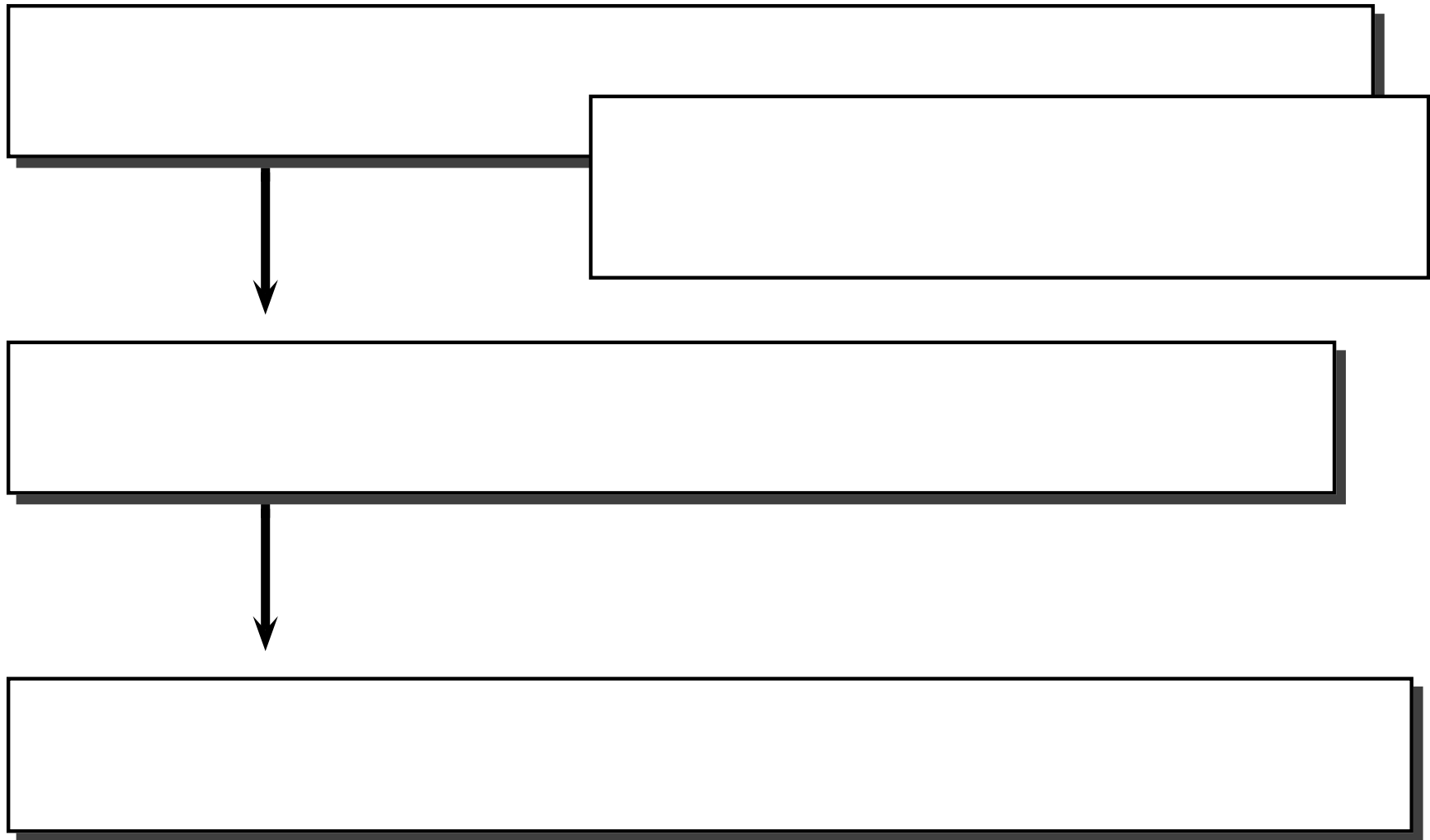
– $\sigma^2 + \omega^2 = 1$ _____

– $\sigma^2 + \omega^2 > 1$ _____

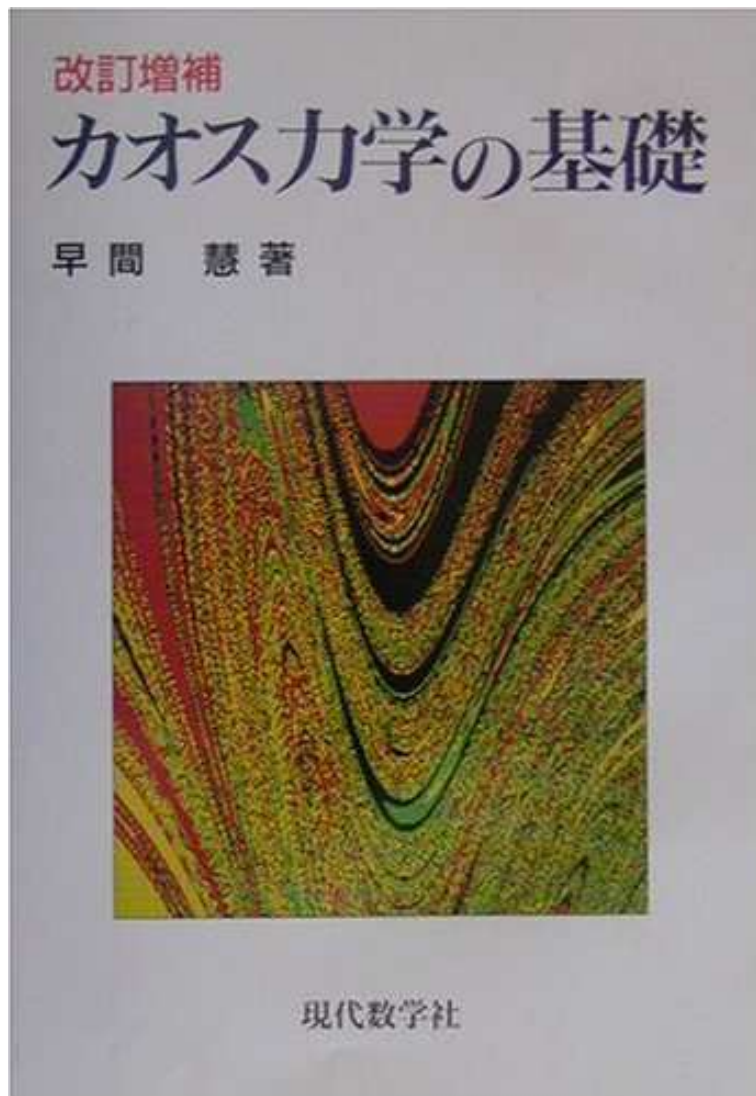
2次元線形差分力学系の振る舞い



まとめると ...



参考資料紹介



早間 慧,
(改訂増補) カオス力学の基礎,
現代数学社,

参考文献



徳永隆治:
フラクタルと画像処理
—差分力学系の基礎と応用—,
コロナ社, 2002.

参考書籍紹介



平岡 和幸，堀 玄，
“プログラミングのための線
形代数，
オーム社，2004年。